

広げよう 見つめよう 私の世界 ～ラオスの日常より～

氏名：城間 芽美

学校名：糸満市立西崎小学校

担当教科：小学校全科

実践教科：道徳、特別活動（学活）

時間数：4 時間

対象学年：第 5 学年

人数：28 人

【実施概要】

【1】 単元目標

- ・外国の文化に興味を持ち、異文化を理解するとともに、これを尊重する態度を養う。
- ・異なる文化を持った人々と共に生きていくための資質を養う。

【2】 単元の評価 規準	(ア) 関心・意欲・態度	外国の文化に興味・関心を持つことができる。
	(イ) 思考・判断・表現	外国の文化の違いに気づき、異なる文化を持つ人々と関わるにはどのような気持ちを持つことが大切か考えることができる。世界の人々のために、自分ができていることを考えることができる。
	(ウ) 技能	資料などから必要な情報を読み取り、比較したり、推測したり、まとめたりすることができる。
	(エ) 知識・理解	世界には自国と類似/相違する文化があることを理解することができる。

【3】
単元設定の理由
国際社会の中で主体的に生きるためには、一人ひとりが互いを理解し尊重する態度を持つことが大切である。国際的な視野を持ち、同じ人間として互いに助け合う気持ちで、自分ができていることを考え実践していこうとする態度を養うことも望まれる。そこで、本単元では、自己理解/他者理解と国際貢献をテーマに単元を設定した。

(1) 児童観

児童は、日常生活で外国の人（ALT の先生を除く）と接する機会が少なく（学級全体の 80.7%）、国を越えた人種や文化の違いに触れる機会が十分でない。外国のことを知りたいという関心も低く（26.9%）、外国の人とどのような気持ちで接していいかわからない児童もいる（57.6%）。国際貢献については、「何だかむずかしそう」、何のことか「わからない」といった児童が多い（88.3%）こともわかった。

(2) 教材観

本単元では、単元のねらいにせまるため大きく二つの構成とする。前半では、ラオスを通して、世界には類似/相違する文化があることを知らせ、外国の人との付き合い方についてはどのような心構えが大切か考えさせる。後半では、ラオスの一国にとどまらず、広い視野を持たせるために、「世界がもし 100 人の村だったら」を通して、世界の現状と世界の中の日本の立ち位置を確認し、日本人として、世界の人々のために自分ができていることえさせる。

(3) 指導観

本単元では、世界には様々な文化があるが、ラオスはその一例であることを押さえる。文化の相違点だけでなく、類似点にも気づかせることで、外国の文化は必ずしも違うものだけではなく、地理的關係などから互いに影響し合い、似通うこともあることを理解させたい。後半は、世界の現状を知らせ日本が担う役割を意識させた上で、世界の人々のために小学生という立場から何ができるかを考えさせられるようにする。

【4】展開計画（全4時間）

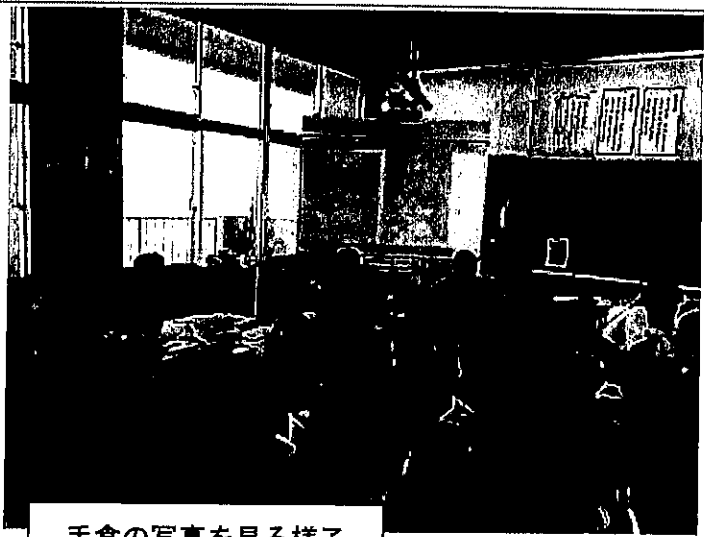
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	「ラオスを紹介しよう」 ねらい ラオスの紹介を通して、ラオスと日本（沖縄）の類似点や相違点に気づき、異なる文化を尊重する態度を育む。	ラオスの衣食住や宗教、歴史などの紹介を参加型のワークショップで行う。主に、ラオスから持ち帰った物やラオスで撮った写真を児童に手に取ってもらい、それが何か考え発表させる。その後の解説により、文化の類似/相違点に気づかせる。	・物（シン、ティップカオ、パーシ、不発弾で作られたスプーン、ラオスの教科書など） ・写真（家、托鉢の様子など） ・ワークシート
2 本 時	「いろいろな食べ方」 ねらい 外国の人と仲良くなるためにはどのような気持ちや考えを大切にするとよいか考えることができる。	ラオスの手食の紹介を通して、世界には主に3つの食事方法があること、食事方法が生まれた背景、それぞれの食べ方の良さを知らせる。異なる文化を持つ人と関わる時にどのような気持ちや考えを大切にしたらよいか考えさせる。	・資料「ラオスからの留学生」（自作教材） ・写真（ラオスの食事の様子） ・物（ティップカオ） ・ワークシート
3	「世界がもし100人の村だったら」 ねらい 世界の現状と日本の役割を知り、世界の国々への関心を高めることができる。	世界の人口、男女比、世界の子どもと大人の割合、大陸ごとの人口比率、世界の言語の比率、非識字率、貧富の格差について、役割カード等を使用し参加型の学習で擬似体験する。	・役割りカード「ワークショップ版世界がもし100人の村だったら」（開発教育協会） ・自作資料
4	「自分ができること～国際貢献について考える～」 ねらい 誰かのために何かをすることの大切さを知り、自分ができることを考えることができる。	写真から人々の様子をとらえ、支援が必要かどうかを考える。その考えにいたった理由を互いに話し合う中で、自分の考えを深める。自分のしようとする支援は相手にとって本当に必要なことか考えさせる。終末は、児童一人ひとりが世界で困っている人のためにできることとして、まずは世界に関心を持つこと、日々の学習をがんばることなどが、国際貢献につながることに気づかせる。	・写真（ラオスのサッカーゴール、楽しくサッカーするラオスの少年） ・ワークシート

【5】本時の展開			
過程 時間	学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (5分)	1. 前時の復習をする。 ○ラオスの主食は何か。 ・お米、カオニャオ ・ティップカオ(容器)に入っている。 2. 資料を読んで話し合う。 ○手でごはんを食べるブンテンを見てどう思うか。 ・行儀が悪い、汚い、不衛生、など。 ○なぜブンテンは食べることをやめたのか。 ・いやな気持ちになったから。	・グループ形態で自由に発言できるようにする。	・物(ティップカオ) ・資料1
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 外国の人と仲良くするためには、どのような気持ちや考えが大切か考えよう。 </div>			
展開 (30分)	3. 手食文化について知る。 ○世界には主にどんな食事の仕方があるか。 ・箸食 30%、フォーク・ナイフ食 30%、手食 40%と言われている。 ○なぜ世界の食べ方は3つに分かれたか。 ・食べ物や宗教的な考えの違いから説明。 ○ラオスの食事の仕方を一例として知る。 ・食べ方の説明。 ・教師が手食をした体験の感想。 ○手で食べることをどう思うか。 ・行儀悪いことではない。 ・やってみたい。 4. 外国の人との接し方について考える。 ○ブンテンのように手食をする外国の人がいたらどうするか。 ・その国の食べ方だと理解する。 ・食べ方を教えてもらう。 ・箸の使い方を教える。	・予想をさせて関心を高める。 ・地域によって食べ物が違うことをヒントに考えさせる。	・資料2 ・掲示用資料「世界の食事方法の分布地図」 ・資料4
まとめ (10分)	5. 振り返る。 ○外国の人と仲良くするためには、どのような気持ちや考えを持つことが大切か。 ・相手の文化を受け入れる気持ち大切。	・お互いの考えをグループで交流させることで、自分の考えを深める。 【評価】外国の人と仲良くするためには、どのような気持ちや考えを持つことが大切か考えることができたか。(ワークシート)	

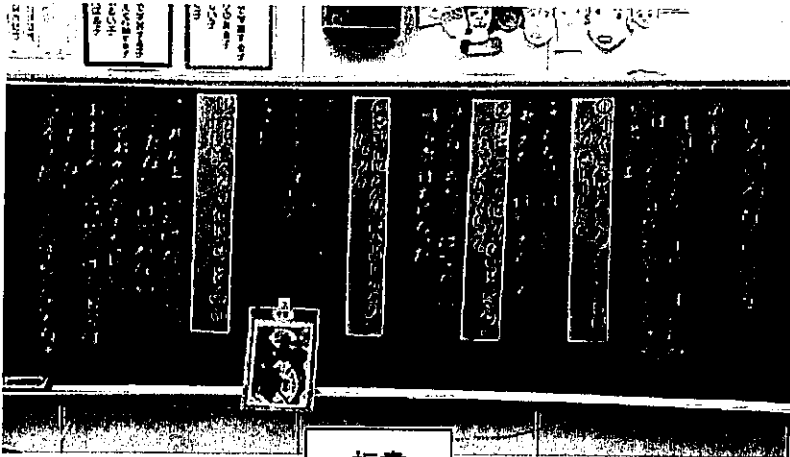
【授業実践の様子】



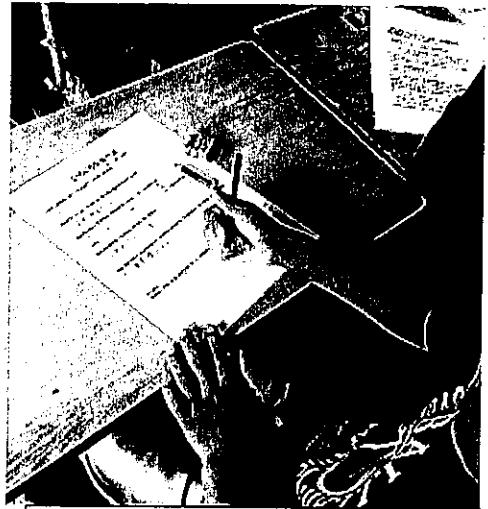
意見を交換する児童



手食の写真を見る様子



板書



ワークシートに考えを書く様子

【6】本時の振り返り

- はじめは手で食べることに對して、「きたない」という意見が多くあったが、手食文化について知識を深めていく中で、「おもしろい」、「やってみたい」という声に変わった。
- 資料「ラオスからの留学生」には、児童の生活に起こりえそうな設定にしたので、終始児童を引きつけることができた。
- なぜ世界には主に3つの食事の仕方があるかをグループで話し合わせることで、互いの知識を持ち寄り思考を巡らす様子が見られた。
- ワークシートの質問事項を厳選すると、時間の短縮になり、その分意見交換に時間配分できた。
- 資料「ラオスからの留学生」は結末がない。話の続きと結末を児童に考えさせる指導案も考えられる。
- 学校と保護者の許可を得た上で実際に手食体験をするとさらに理解が深まる。実際、体験したいという児童の声が多く聞こえた。

【7】 単元を通した児童生徒の反応/変化

(ア) 関心・意欲・態度 外国の文化に関心を持つことができる。

- ・単元を通して外国のことに興味を持った児童が増えた。(授業前 26.9→後 53.8%アンケートより)
- ・ラオス以外の国を知りたいという児童の声があった。(アンケートより)

③授業を受けた後、あなたは外国のことを知りたいと思うようになりましたか。

はい ・ いいえ

※「はい」と答えた人→外国のどんなことを知りたいですか、自由にどうぞ

しほかの国のごはんや伝統いしょう

はい ・ いいえ

※「はい」と答えた人→外国のどんなことを知りたいで

ウルドゥー語をわくの国の言葉

(イ) 思考・判断・表現

①外国の文化の違いに気づき、異なる文化を持つ人々と関わるにはどのような気持ちを持つことが大切か考えることができる。

- ・それぞれの国で文化が違うことを理解し、受け入れる気持ちを持って外国の人と接することが大切であると考えることができた児童が多かった。(92%、ワークシートより)

【例文】

外国の人々と仲良くするには、どんな気持ちや考えをもちたいですか。

相手の文化を受け入れて今まで通りにやさしくせよする
その後もふつうに話したりして相手をききつけないようにする。

②世界の人々のために、自分ができていることを考えることができる。

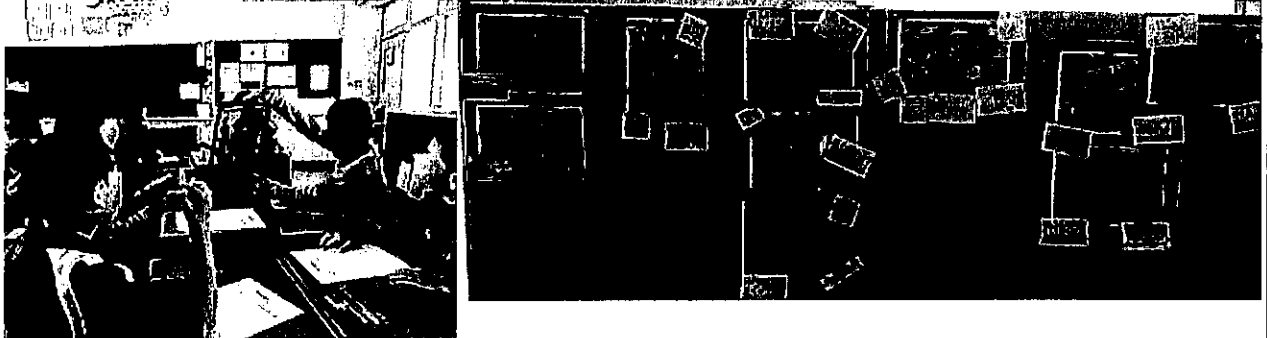
- ・「相手を知る」や「インターネットで調べる」、「知るための方法を学校で身につける」など、小学生でできていることを考えることができた。(56%、ワークシートより)

最初は、「ほー金以外は無理!!」と、思っていたけど、
この授業で、相手のことを知ることもいいんだと
思いました。今、私にできることは、相手のことを知る
こと、自分でもできそうなことはやることです。

- ・相手のことを知るうえで、この知る方法を、こうで例につける。
- ・相手は本当にどうしようとしてるのか。
- ・相手の気持ちをどうしてあげようか。

(ウ) 技能 資料などから必要な情報を読み取り、比較したり、推測したり、まとめたりすることができる。

- ・写真、物、新聞記事、グラフ（世界の人口や男女比）、地図（世界地図、世界の食事方法の分布地図）などから、文化の比較や予想、世界の状況等の理解、思考の判断に生かす姿が見られた。
- ・学んだことをグループで協力してまとめることができた。（授業の様子より）



(エ) 知識・理解 世界には自国と類似/相違する文化があることを理解することができる。

- ・ラオスと日本（沖縄）との類似点や相違点について表にまとめることを通して理解することができた。（ワークシートより）

②「ラオスの紹介」であなたが学んだこと、感じたこと、疑問に思ったことを書いて下さい。

・日本(特に沖縄)の文化に似ているところやものが意外とたくさんあってびっくりした。

沖縄の戦争代わりがホノラオスの不発弾ばかりだと思った。

ラオスを紹介しよう

ラオスについて	知っている(または知っている)こと
・人口が約600万人	・本生人が住んでいる
・ラオスの首都は万象	・日本語が話せる
・スグーが話せる	・もちもちの主食
・ラオスの国花はパイン	・リベラ(リベラ)
・宗教は仏教	・花紙(100円札の裏)
	・スグー
	・不発弾がある
	・レシマイ
	・フアケ(オク(ホー))

【途上国・異文化への意識の変容について記載下さい】

- ・途上国（ラオスを含む）について、貧しくて「かわいそう」というイメージを払拭した児童がいた。
- ・途上国であっても、それぞれの土地で満たされている生活をしていることに気づくことができた。

最初は、貧しい国だと思っていたけど、映像を見るとあまり貧しい国ではなかった。

ラオスは、今のままでも楽しそうだからいいと思う。

(アンケートより)

ほってんしなくてもたのしむべきといけそう。

[8] 自己評価

(1) 改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の人々のためにできることを考えるだけでなく、実践に移すまでの手立てを見通した単元計画が必要である。 ・観点ごとの評価方法をあらかじめ明確にしておく。
(2) 成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> ・本単元の実施が、外国への興味・関心を高めるきっかけとなった。 ・異なる文化を持つ人とのつきあい方や、世界のためにできることについて、自己の考えを持つことができるようになった。 ・グループワークにおいて以前より協力的に活動する姿が見られるようになった。 ・外国の文化は相違点だけでなく類似点もあることに気づくことができた。

添付資料：

【資料1「ラオスからの留学生」】

ある日の出来事です。() 小学校の
() 年() 組に留学生がやってきました。

名前はブンテン。ラオスから来ました。

ブンテンは、日本に来たばかりです。はじめは、とてもきん張していましたが、() 組のみんながやさしいので、すぐ打ち解けました。となりの席になった() (さんと() (さんが、さっそく、

「ラオスの言葉を教えて。」
と言いました。ブンテンは、

「サバイティー」

としてみせます。準備時間は、() (さんが、
今話題の() (の話をしめます。図書館

の利用の仕方がわからないときには、() (さんが気をきかせて教えてあげました。長休み時間は、() (さんが、

「ブンテン、サッカー行こう！」

と元気にさそいます。

そんな1日を過ごし、ブンテンは() (組のみんなが大好きになりました。

ブンテンが来て2日目は、みんながまことに
まった調理実習がありました。

ブンテンもグループに分かれて、お米をたく実習をしました。みんなで協力し、上手にご飯ができました。

茶わんにお米をよそおい、いよいよ試食開始です。もぐもぐもぐ。

「おいしいね。」

という会話が聞こえる一方で、ブンテンのまわりはがやがやし始めました。なぜなら、ブンテンが手でご飯を食べ始めたからです。

ある子は、げげんそうな顔をします。

ある子は、小声で、

「うわっ……」

と言いました。

それに気づいたブンテンは、うつむき、食べることをやめました。

【資料2 ワークシート】

いろいろな食べ方

年 組 名前 ()

①手でご飯を食べるブンテンを見て、どう思いましたか。

②なぜブンテンは、うつむいて、食べることをやめたのでしょうか。

③世界にはどんな食事のし方があるでしょうか。 ④人口の割合 (%)

()

(%)

()

(%)

(はし)

(%) と言われている

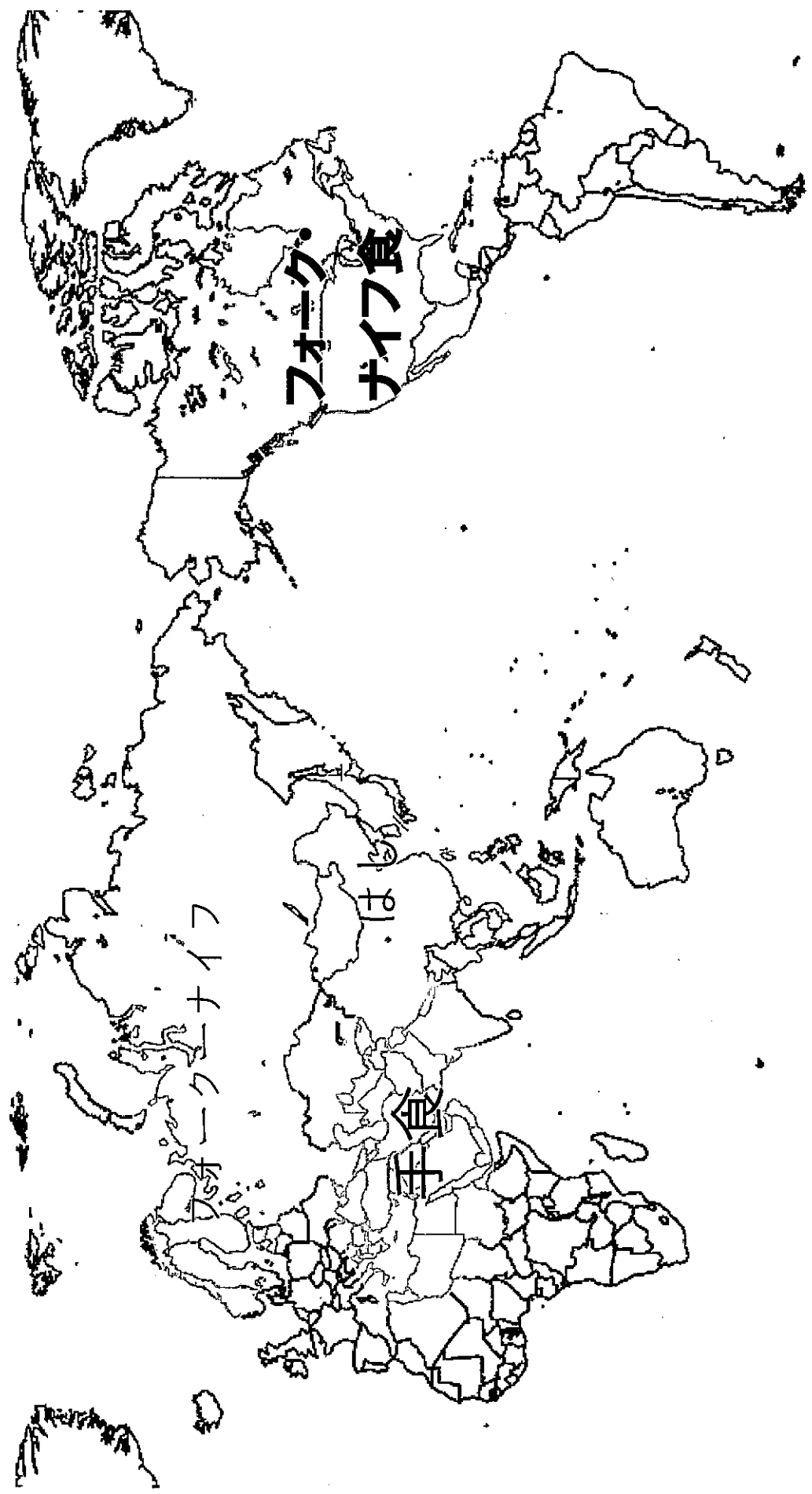
⑤手でご飯を食べる文化についてどう思いますか。

⑥手で食べるブンテンのとなりで、あなただったらどうしていましたか。(どうすることができたか)

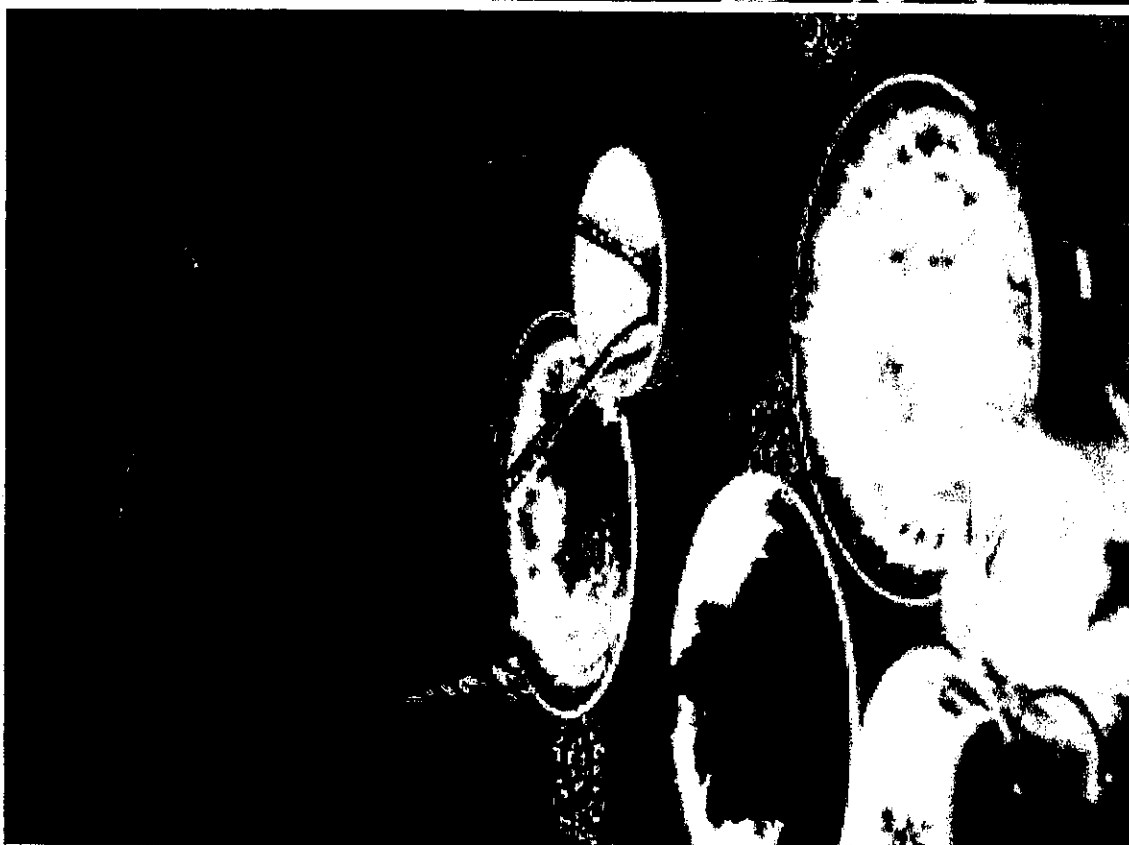
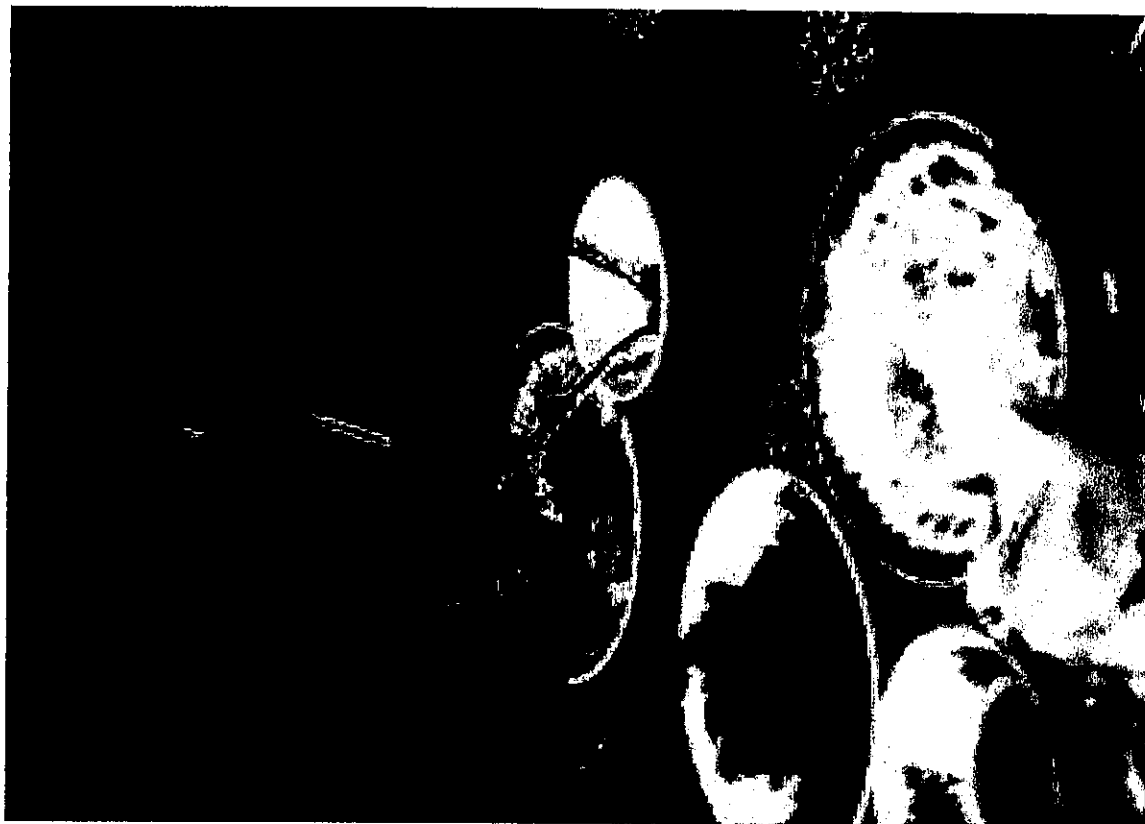
ふり返し

外国の人たちと仲良くするためには、どんな気持ちや考えをもつことが大切ですか。

【資料3「世界の食事方法の分布地図」】



【資料4「ラオスの食事の様子」】



参考資料：

- ・『4年生のどうとく』文溪堂.
- ・「世界の三大食事方法」, <<http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~ioku/foodsite/hash/sandaisyokusahou.html>>
- ・「ちびむすドリル小学生」, <<http://happyilac.net/sy-sekaitizu-s3.html>>